

教員評価結果（平成22年度）

1. 教員評価対象者：109名、うち参加者109名（全員）

産業技術学部：43名（教授18、准教授・講師22、助教3）

保健科学部：39名（教授23、准教授・講師11、助教5）

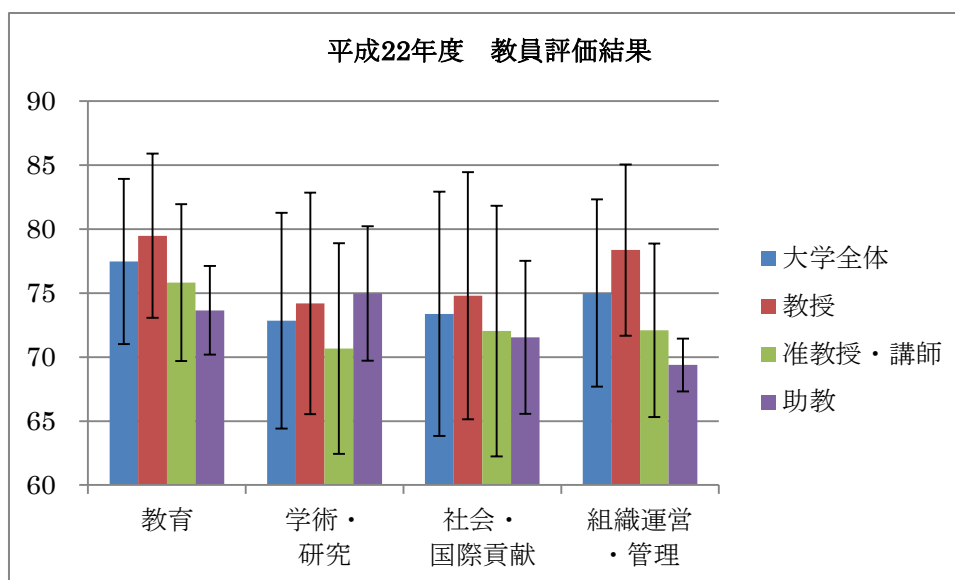
支援センター：27名（教授14、准教授・講師11、助教2）

※准教授と講師は合わせて集計している。

2. 評価結果

(1) 平成22年度評価結果

平成22年度の評価結果について、大学全体および職位毎の平均値と標準偏差のグラフをカテゴリー別に示す。



【大学全体のカテゴリー別評価結果の傾向】

○教育＞組織運営・管理＞学術・研究＝社会・国際貢献の傾向がある。

○全体としてのバランスは取れている。

【カテゴリー別職位別評価結果の傾向】

○学術・研究では、助教の評価点が高くなっている。

○学術・研究以外では、職位が高いほど評価点が高くなっている。

(ア) 教育：教授＞准教授＞助教

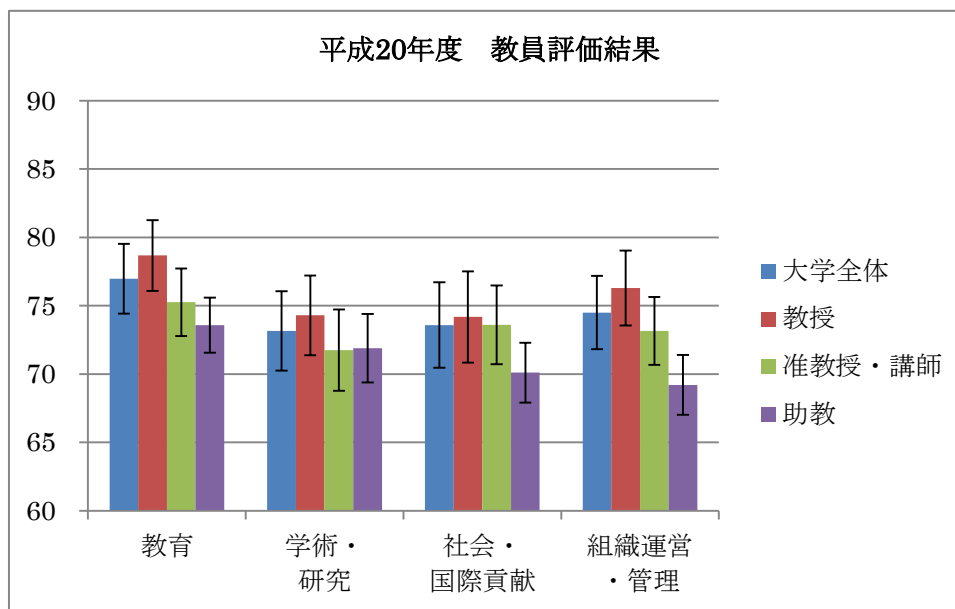
(イ) 学術・研究：助教＝教授＞准教授

(ウ) 社会・国際貢献：教授＞准教授＝助教

(エ) 組織運営・管理：教授＞准教授＞助教

(2) 平成 20 年度評価結果との比較

前回、平成 20 年度に実施した結果との比較を行う。平成 20 年度の評価結果について、大学全体および職位別の平均値と標準偏差のグラフをカテゴリー別に示す。



【平成 20 年度との比較】

- 助教の学術・研究、および教授の組織運営・管理の評価点が大きく増加している。
- 社会・国際貢献の評価点は、助教は増加し、准教授・講師は減少している。
- 上記の他は、カテゴリー毎、職位毎の結果の平均値には大きな差は見られない。
- 標準偏差はどのカテゴリー、職位についても値が大きく増加している。

3. 評価結果の分析と課題

- ①前回の平成 20 年度と同一の内容で教員評価を行った。四つのカテゴリー別、職位別集計の他、前回との比較も行った。
- ②前回同様「教育」が最も高い評価となり、障害者教育という本学の特徴を顕著に示している。
- ③学術・研究以外のカテゴリーにおいては、高い職位ほど高得点となった。しかし、学術・研究においては助教の評価が大きく増加し、高得点となっている。
- ④教授の組織運営・管理の得点が増加している。大学業務としての教授への組織運営・管理の負担が増加しているものと推測される。
- ⑤平均値としては一定傾向にあるものの、標準偏差から読み取れる評価のばらつきは大きく、特に前回と比較してそのばらつきは大きくなっている。個人間の業務自体のばらつきによるものか、あるいは自己評価に対する甘さ・厳しさのばらつきによるものか、検討を行う必要がある。